



## 昼は昼らしく、夜は夜らしく

取材協力：田部 泉  
(開発営業部 設計担当部長)

### 業務課から 照明設計の仕事へ

照明の仕事をしたきっかけは、学生時代電気工学科に在籍中、卒業論文のテーマに照明設計を選んだことに遡ります。4名の仲間と共同で卒論を仕上げることになり、1年以上照明設計の研究に時間を費やしました。卒業後は、四国に帰って照明の仕事をしたいとの思いがあり、照明を取り扱う会社を調べたところ唯一見つかった宮地照明に入社しました。

入社して半年間は業務課に在籍し、商品の発注や入荷、在庫管理などの業務を行いつつ、カタログを見てメーカーや商品を覚えました。その後は、補佐として先輩の図面作成や照度計算などしながら、営業の仕事覚えてゆきました。

当時、照度計算は限られたメーカーしか対応しておらず、依頼方法もFAXで時間がかかっていたので、私が大学で学んだ照度計算を行うことでずいぶんと時間短縮に貢献できました。

また、営業担当になった際には、自分の得意先がなく、帯屋町などの店を1軒1軒訪問し、ランプのメンテナンスや店舗改装の照明計画の依頼をいただきました。そんなお客様との絆を築きながら、将来は店舗、ホテルや施設の照明設計をやりたいと思っていました。

## 光のデザインを感じる

入社年の秋ごろ、メインの取引先だった山田照明本社の新作発表会があり、彌典前会長に同行させていただきました。夜の懇親会後に、彌典前会長と数人で新宿2丁目のビルの地下にある「サパークラブ カッサドル」に連れて行っていただき、大きな刺激を受けました。照明は安価な鋼板のペンダント照明で薄暗い趣のある店内は、倉俣史郎氏が内装デザインを、壁面の人物の影絵を高松次郎氏が手掛け、描かれた影絵に実際の人影が重なり「人と影」を映し出す光景がとても素敵で印象的でした。そこは、杉本貴志さんをはじめとする錚々たる有名若手デザイナーが集う店と聞き、それ以来、照明デザインに一段と心を惹かれるようになりました。また建築や店舗の設計者が生み出す作品や、その人そのものに興味を抱き、次々と本を読み、多くの著名な建物に足を運び、建築家やデザイナーの講演会にも参加して話を伺うことでたくさんのお話を吸収することができました。

当時、照明設計は器具の意匠に重きを置き、平均照度が重視される時代でした



が、この頃から照明計画は光のデザインだと感じるようになりました。もともと建築が好きなので、建物を美しく見せる照明設計の仕事に一層興味を抱き、いろいろな建築物と向き合って知見を深めました。

## 創り出すことの意味を大切に

一方、空間デザインだけでなく、照明器具そのもののデザイン・設計を手掛け、オリジナルの別注品も数多く作ってきました。高知から松山に転勤した当時はパチンコ店やホテルの仕事がとても多く、同業者との差別化を狙うためにも特別な設計と意匠を施した器具の提案をしました。その頃、一番関心があったのは光ファイバーです。天井に小さい穴を空けて光ファイバーを一つひとつ通してゆく工程は手間はかかりますが、完成するととてもきれいで印象的なフォルムを放ちます。ホテルや病院、葬祭場など数多くの施設に提案し設置しました。

最近では道後温泉本館の保存修理工事、寺院、高知城の防災設備工事などの古建築を保存するプロジェクトでも、別注品の提案をしました。オリジナルで作るので労力がかかりますが、通常より多くの利益が見込めます。手間と時間を省くために、メーカーの協力も必要ですが、自分でも図面の中身やプロセスを十分に理解しておくことが大切です。例えば重量物では、ボルト一本の耐久性や強度なども考慮する必要があり、よりきめ細かいチェックが大切です。

また最近ではスタンド照明がメーカーのラインナップから少なくなりました。そのため気に入る商品が少なく、仮に気に入った器具があっても高額となるケースが多くあります。住宅照明では、移動できる照明が必要だと思っており、フレキシブルなスタンド照明の図面を描いてオリジナルを何台か制作しました。メーカーに頼ることなく、要望に応じた器具の製作ができる当社だからこそ、そういう所にも力を入れてゆくべきだと思います。

## 時間軸のある照明デザイン

これからの照明設計はHCL(ヒューマン・セントリック・ライティング)の考え方が当たり前になってきます。人間のライフスタイルや時間に合わせて照明の色や明るさを制御するもので、人を中心にした照明設計の概念を指します。これは彌典前会長が言い続けてこられた「昼は昼らしく、夜は夜らしく」の考え方そのものです。私たちが大切にして培ってきたことに時代が追い付いてきたのではないのでしょうか。

若い人たちにも継承していただき、さらなる先に歩みを進めてほしいと思います。

設計：大野順作建築研究所 撮影：北村 徹

